



ザリガニをつかまえるのは、どうすればいいの

するめでつるのが、^{かんたん}簡単

ザリガニは、^{ひるま}昼間は石の下や^{した}水草の^{みずくさ}かげ、^{かわぎし}川岸の^{もの}ふちの物かげにかくれています。

ザリガニは、^{ぼう}棒の^{さき}先に、^{いと}するめをしばった^{いと}系（たこ糸など）を^{むす}結びつけ、^{みず}水の中に^{なか}たらし
てつることができます。^{いと}糸を^あたらし^うてま^うっていると、ザリガニが、^ひするめを^ば引っ張^るのがわ
かります。そ^{いと}と糸を^あもち^あ上げ、^あするめを、^{すがた}はさみで^みつか^みんだザリガニの^{すがた}姿^みが見^みえてきた
ら、^{からだ}たも^うなどでザリガニの^う体^うを受け^うま^うしょう。こ^うす^うれば、ザリガニが、^うするめを^うは^うなし
ても、^うに^うげ^うられ^うず^うに^うす^うみます。

^{あみ}じょう^{あみ}ぶな^{あみ}網^{あみ}があれば、^{かわ}川^{いけ}や^{いけ}池^{いけ}な^{いけ}どの、^{くさ}草^はが^は生^はえた^ど土^て手^ての^あふ^ちち^のあ^たり^を、^{そこ}底^{ほう}の^{ほう}方^{ほう}から^ここ
す^りな^がら^すく^つて^みま^しょう。ザリガニが、^{はい}入^{はい}って^くる^こと^があ^りま^す。

とったザリガニの、^{かた}じょう^{かた}ず^{かた}な^{かた}あ^{かた}つ^かい^か方

ザリガニをつかむときは、^{せなか}背^{なか}中^{なか}から^はは^さみ
の^ねつけ^ね根^ねあ^たり^を、^{おや}親^{ゆび}指^{ひと}と^{ひと}人^{ゆび}さ^{ゆび}し^{ゆび}指^{ゆび}で^しっ^かり^つか^むと、^{しん}は^さま^れる^{しん}心^{ばい}配^{はい}は^あり^ませ^ん。
もし、^{ゆび}指^{ゆび}を^はさ^まれ^たな^らば、^{いた}痛^{いた}い^のを^がま^ん
して、^て手^てを^ふっ^てザリガニの^しっ^ぼが^じめ^ん地面^{じめん}
を^はた^くよ^うに^しよ^うと、^{ゆび}指^{ゆび}を^はな^しま^す。

つかまえて^{いえ}家^{いえ}にも^{かえ}つて^{かえ}帰^{かえ}るときは、^{バケツ}バケツ
な^どに、^{からだ}ザリガニの^{からだ}体^{からだ}が^ひた^ひた^かぶ^るぐ^ら
い^の水^{みず}を^い入^いれ、^{すい}水^{おん}温^あが^らな^いよ^うに^き気^き
を^つけ^まし^{ょう}。（監修・中山 周平）

